

NO! リニア

No. 161

2022年11月24日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



大井川水問題パンフは問題だ！ ⑪

突発湧水対策は不明！ 大井川上流域は関係ないのか？

パンフの質問6「工事の影響は、調査や解析のとおりになりますか？」に対する回答の一つは「トンネル掘削にあたっては、突発湧水等の不測の事態が生じる可能性があるというリスクを確認した上で、みなさまに安心していただけるよう調査・計測（モニタリング）結果を地域と共有しながら、必要に応じてリスク対策を実施します」というものです。そして、「影響が発生する兆候が認められる場合は、工事を一時中断し、…山梨県側に流れる湧き水をさらに減少させ、掘削のタイミングを検討するなどのリスク対策を実施します」としています。

突発湧水が避けられないリスクであることは、会社も承知済みです。しかし、突発湧水に対する具体的な対策については全く触れられていません。突発湧水対策の技術は確立されているのでしょうか？工事を一時中断したり、掘削のタイミングを検討したからと言って、破砕帯（突発湧水の原因となる巨大な貯水層）がどこかに移動するわけではありません。また、破砕帯を避けてトンネルのルートを変更するような工事はできません。掘削のタイミングとは、一体何でしょうか？工事の一時中断でいつ再開するのでしょうか？会社の言っていることは、よく分かりません。

本紙159号でも明らかにした通り、南アルプストンネルは、芦ノ湖3杯分の水が流失した丹那トンネルの約10倍規模の破砕帯があります。この水がなくなったらどうなるのでしょうか？破砕帯に空洞ができ、地盤が弱くなるのは確実でしょう。大井川上流に水は流れるのでしょうか？まさに、未知の世界です。

また、「山梨県側に流れる湧き水をさらに減少させ」としていますが、そもそも全量戻し、つまり他県には流失しないと表明しておきながら、他県に流れる水を少なくするという見解は矛盾していると言うしかありません。

以上のように、机上の空論を押し付けても、全く意味がないのです。